地球ミュージアム紀行

研究所か博物館か
――サンクトペテルブルクの人類学民族学博物館

佐々木 史郎（ささき しろう）
民博 先端人類科学研究部

ロシアのサンクトペテルブルクにある人類学民族学博物館は、すでに一四〇年も研究所と博物館のあいだを揺れ続けてきた。本来、人類学・民族学にとって博物館と研究機関は表裏一体のもので、どちらかがかけても成り立たないはずなのだが。

宝物館から博物館へ

ロシアの古都サンクトペテルブルクにある人類学民族学博物館は、通称「クンストカーメラ」とよばれるロシア最古の博物館である。正式名称は「ロシア科学アカデミーピョートル大帝記念人類学民族学博物館」という。ネヴァ川のほとり、有名なエルミタージュ美術館から川を挟んで斜め向かいにあり、中央に塔がそびえる緑色の建物が特徴的である。

当初はピョートル大帝の個人コレクションとして始まった。「クンストカーメラ」というのはドイツ語で王侯貴族の宝物蔵を意味する「クンストカンマー」に由来する。建物は一七三四年に完成したが、一七四七年に焼失、再建された。再建とはいえ古都サンクトペテルブルクでも最古の歴史的建造物のひとつである。その両隣には動物学博物館と科学アカデミーの旧本部（帝政時代の本部）があり、近くには国立サンクトペテルブルク大学のキャンパスが広がる。この博物館の周辺はまさにロシアの学術研究の中心である

クンストカーメラは珍品宝物館だった関係で、当初は民族学資料に限らず、動植物標本や鉱物標本なども多数収蔵していた。しかし、その後各分野の研究の進展によって、動植物や鉱物の標本はそれぞれ別の博物館が創設されてそちらに移され、クンストカーメラには民族学の標本と人類学、解剖学の標本が残された。そして、両者を一括して保存管理し、ロシアにおける民族学と人類学の研究拠点とするために改組され、一八七八年暮れに「人類学民族学博物館」として生まれ変わった。

ロシア革命によって帝政が崩壊するまで、この博物館はロシアの民族学と人類学をリードした。しかし、一九三〇年代になるとスターリンの粛正の嵐に巻き込まれ、さらにそれに続く第二次世界大戦で多くの研究者が前線やドイツ軍に包囲されたレニングラード（注：サンクトペテルブルクは一九一四年ペトログラード、一九二四年にレニングラードと改称され、一九九一年に住民投票により当初の名称に戻された）の町中で命を落としたために、この博物館の研究機能は大きく損なわれる。戦中の一九四三年に民族学研究所の立て直しが始まるが、それはモスクワが中心であり、この博物館はその後ソ連崩壊までソ連科学アカデミー民族学研究所レニングラード支部とされた。ソ連崩壊後の一九九二年にモスクワの研究所から独立し、再び「人類学民族学博物館」としてロシア科学アカデミー直属の研究機関となり、現在に至っている。

民博に似ている？

この博物館の性格は民博と非常によく似ている。すなわち、世界をフィールドにした民族学、人類学の研究拠点としての機能をもつ研究所であると同時に大量の標本資料、映像音響資料を有する博物館でもある。この博物館の研究部門にはオーストラリア・オセアニア・インドネシア、アメリカ、アフリカ、東・東南アジア、東スラブ・ヨーロッパロシア、ヨーロッパ、コーカサス、シベリア、中央アジア、南・西アジアといった地域ごとの研究部とともに、人類学、考古学、博物館史、政治・社会人類学研究センター、『人類学フォーラム』誌編集部などの分野別の研究部がある。また、博物館のバックヤードともいえる博物館部門には出版部、展示部、展示案内・教育部、映像音響人類学実験室、保存修復実験室、資料管理部、図書館、古文書館、博物館警備部、情報技術部があり、研究、博物館両部門で一八九人（研究者は一二〇人）の正規職員が働いている。

展示そのものは、古い展示ケースを使用し続け、リアルな石膏（せっこう）の人形に衣装を着せてポーズをとらせるなど、古色蒼然（こしょくそうぜん）とした一〇〇年前の展示が継承されている。しかし、この本質主義的な展示も、展示資料が今や展示されている社会や民族にとって文化財級の貴重なものになっているために、逆に各文化の特徴を際立たせる働きをしている。これらの資料に収集当時の情報と現代における資料の意義を付加すれば、この展示のもつ研究と教育上の機能を大幅に向上させることができる。

現在、人間文化研究機構の研究事業として実施されている「日本関連在外資料調査研究」というプロジェクトの一環として民博が中心となり、クンストカーメラが所蔵する日本資料の調査がおこなわれている。ここにはシーボルトをはじめとする江戸時代に長崎に来航したヨーロッパ人が収集した資料が収蔵、展示されており、この調査によってシーボルトコレクションの知られざる一面のみならず、今は忘れ去られている江戸時代の日本文化の一端も明らかにすることができる。それによってこの博物館の日本展示と日本研究がさらに充実したものとなることが望まれる。

人類学民族学博物館（クンストカーメラ）全景

アフリカ展示ホール

鉞を投げるアレウトの男性。北アメリカ展示より

南アジア展示ホール

日本展示の仏壇。下に見える位牌には「坪井博士之霊」と記されている